

## 6. 令和6年度 基準範囲共用化委員会報告

### Report from the Committee on Common-use Reference Interval in 2024

堀田 多恵子 (基準範囲共用化委員会委員長、九州大学病院検査部技師長、現 国際医療福祉大学成田病院臨床検査科技師長)

**Taeko Hotta (Chairperson of the Committee on Common-use Reference Interval, Chief Medical Technologist for Kyushu University Hospital, Currently, Chief Medical Technologist for International University of Health and Welfare Narita Hospital)**

#### 1. 活動内容

- ・ 共用基準範囲採用拡大、臨床判断値との違いについて周知に努めた。
- ・ JSCC 基準範囲共用化専門委員会と連動し、間接基準範囲策定の試みを継続した。

#### 2. 委員会開催

未開催 (第64回臨床化学学会年次学術集会開催時に対面形式での開催を計画したが、悪天候のため中止した)

#### 3. 状況報告

1. 共用基準範囲に関する転載申請許諾
  - ・ 京都廣川書店 「実証 医薬分析科学」 安井裕之ら
  - ・ 臨床検査データブック 2025-2026 黒川清監修
  - ・ 治療薬ハンドブック 2025
  - ・ 医学書院 medicina 第62巻 第2号 日常診療や健診での臨床検査値における性差 東條尚子 著
  - ・ 株式会社じほう 「検査と適応疾患 令和6年6月版」

- ・ 株式会社ヘルシーパス 血液クイズーふかよみマスターをめざそうー 小池雅美 著
- ・ 日経ドラッグインフォメーション 「総合診療医が考える検査値の活かし方」 岸田直樹 著
- ・ 丸善 JAMT 技術教本シリーズ「血液細胞症例集 第2集」
- ・ 医療機器安全実践ガイド「臨床医学編」
- ・ 株式会社シノテスト 「日本における主要な臨床検査項目の共用基準範囲」 複写許諾

#### 2. 共用基準範囲に関する問合せ対応

- ・ 小林氏 CRP の基準範囲について

#### 3. 共用基準範囲採用%の推移調査

日本医師会、日本衛生臨床検査技師会の精度管理調査アンケートから年次採用率の推移を調査し、いずれのアンケートにおいても年次採用している医療機関が増加していることを確認した。

(平均採用率 日臨技 令和5年 43.5% → 令和6年 45.9%)

特に ALP と LD は IFCC 法への変更に伴い採用した施設を多く認めた。(88.1%、68.8%)